

ノーベル賞作家

黒澤明 × カズオ・イシグロ

不朽の名作がイギリスを舞台にいま、よみがえる！

黒澤明の不朽の名作『生きる』(1952年)が第二次世界大戦後のイギリスを舞台に蘇る。小説「日の名残り」、「わたしを離さないで」などで知られるノーベル賞作家カズオ・イシグロは、若かりし頃にこの黒澤映画に衝撃を受け、映画が持つそのメッセージに影響されて生きてきたと語る。そんな彼が脚本を手掛け、この鬱屈した時代に新しい『生きる』を誕生させた。

監督は2011年に『Beauty』(原題)でカンヌ国際映画祭のクィア・パルムを受賞したオリヴァー・ハーマナス。

『ラブ・アクチュアリー』、『パイレーツ・オブ・カリビアン』シリーズなどに出演しているビル・ナイが主演を務め、本年度のオスカー候補の1本とされている。

黒澤明×カズオ・イシグロ。70年の時を経てもなおこの映画のメッセージは、観るものすべての心に光を灯すだろう。

STORY

1953年。復興途上のロンドン。公務員のウィリアムズ(ビル・ナイ)は、いわゆる“お堅い”英国紳士だ。役所の市民課に勤める彼は、部下に煙たがられながら事務処理に追われる毎日。家では孤独を感じ、自分の人生を空虚で無意味なものだと感じていた。そんなある日、彼は医者から癌であることを宣告され、余命半年であることを知る——。彼は自分の人生を見つめ直し始め、充実した人生を手に入れようと新しい一歩を踏み出す。その一歩は、やがて無関心だったまわりの人々をも変えることになる——。



3.31 [FRI] ROADSHOW

劇場内での映画の
撮影・録音は禁じます。
www.egakan.org
0120-550098